

いどとしの若者探訪
第2回 ひょうごのお面作家・ギター作家に聞く
vol.4 自分の音を探す

井戸:それで、先生から一人立ちだっというお許しが出るのはいつですか。
吉田:まだまだです。
井戸:今4年ですよ。10年くらいかかるんですか。
吉田:かかると思います。
井戸:ふうん。ギターの製作っていうのは大変ですね。これクラシックギターですね。
吉田:クラシックギターです。
井戸:そうするとクラシックギターの本場というと…スペインですね。
吉田:そうです、スペインです。
井戸:それじゃ、スペインにまた修行に行かなきゃいけないじゃないですか。
吉田:そう…そうですね。そうなるんですよ。
井戸:私の存じ上げてるのはね、クラシックギターの大先生だと鈴木一郎先生がいらっしゃるけど、鈴木先生に弾いてもらわなきゃいけないね、将来。1年に2回ほど日本に戻られるから、今度お話をしとかなきゃいかんな。
吉田:ぜひ、今度新作を作って。
井戸:それで材料は何なんですか。この木は、この底板は、木の種類でいうと…。
吉田:これはローズウッドといって…。
井戸:ああ、ローズウッド。
吉田:中南米で採れる木です。
井戸:そういうギターの底板っていうのは、ローズウッドが良いんですか。
吉田:ローズウッド、あと楓…栃の木。楓はバイオリンなんですけど…。
井戸:バイオリンに使われるんですね。それであえてそのローズウッドを使っているのには意味があるんですか。
吉田:そうですね。やっぱり一番裏板としてのイメージがピッタリで、僕の中で自分の音を出し易いっていう気持ちがあります。
井戸:ギターもニスを塗ったりして仕上げるのですね。
吉田:はい、ニス塗りもします。
井戸:だから全工程全部一人でやるわけですね。分担しないで。
吉田:そうです。分担すると別の人の音なり、作り方がはいるので。
井戸:自分のものを首尾一貫、通すって事なんですね。やっぱりなかなか奥深いですね、ギター製作っていうのはねえ。矢敷先生は、1ヶ月で1本くらい作られるんですか。
吉田:そうですね、1ヶ月に1本くらいです。
井戸:そうですね。矢敷先生の制作されたギターっていうのは、100万円位するんですか。
吉田:いまは…そう、そうですね。まあ材料とか大きさによっていろいろあるので、だいたい

ですが。

井戸:楽しみですね、そうすると、吉田ギターが 500 万円とか。

吉田:500 万円(笑)

井戸:というよりもどんなね、いいギターが作れるかの方が大事ですね。

吉田:そうですね。

井戸:値段がいくらか、よりもね。

吉田:はい。長く作り続けたいという気持ちがあるので。